

<奨励賞 6団体>

■ 特定非営利活動法人 アサヒキャンプ（大阪）／20万円

「ネクストステップキャンプ ～経済的困難(貧困)を抱えるこどものためのキャンプ～」

<p>団体概要</p>	<p>朝日新聞大阪厚生文化事業団が1953年に生駒山に開設し、日本初の体験教育を目的とする「アサヒキャンプ」を前進としている団体。2003年に主管者の朝日新聞の終結決定後、学生ボランティアがアサヒキャンプカウンセラーズとしてキャンプ活動を継続。その活動をより社会的信用を得、責任を果たせるものとするため2006年にNPO法人格を取得した。</p> <p>主な活動は、1953年からの「創造と共同」の精神を受け継ぎ、近畿圏で野外活動を中心にした幼児・青少年の青少年や障がいを持つ方などの育成活動やシニアプログラム、自然保護・環境保全活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>貧困状態にある子どもは7人に1人で、そのような家庭での子どもの育ちに必要な社会的ルールや基本的な生活習慣を身につけることが難しい状況がある。</p> <p>本事業では、キャンプ活動を通して達成感や自己有用感を高め、自尊感情を育て貧困の連鎖からの脱却のきっかけとなるためのプログラムを内容としている。</p> <p>具体的には、20名の貧困家庭の子どもたちを招待し、豊かな自然に恵まれた滋賀県高島市で二泊三日のキャンプ活動を行う。各グループにはトレーニングを受けた学生ボランティアが付き添って、活動や生活を共にし、経験豊かな野外活動指導や心理職がスーパーバイズ（監督・指導）し全体を統括する。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、貧困家庭の子どもたちの家庭事情に着目し、貧困の連鎖からの脱却を狙いとし、当団体のこれまでの障がい児・者のキャンプ実績を踏まえ、単なるレクリエーション活動の意味を超えたキャンプ活動をめざしている。そして、このキャンプ活動が貧困の脱却に有効であるかについて報告書を作成し、広報活動や継続開催のための資金づくり、さらには他の組織キャンプを行っている団体への波及効果への展望も計画されている。審査委員会では、当事業が取り組む課題の深刻度は高く、企画の「創意工夫」や「社会性」「効果と発展性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、貧困家庭の子どもたちに有効なキャンプ活動として実施され、継続した事業とその波及効果に大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 ころん（和歌山）／20万円

「ころんすぺーす ～木と布と工作教室～」

<p>団体概要</p>	<p>地域で暮らす発達障がい児、重度心身障がい児とその家族の方々が安心して安全に過ごせる居場所や相談できる場所、子どもひとりひとりが尊重され主体的な生活を送っていきけるような『生きる力』を身につけていくための支援、療育に携わっている専門家の配置による子どもの理解と個別支援を基盤とした質の高い早期療育を提供できる場所の必要性から、2012年に団体を設立。</p> <p>主な活動は、障がい児通所事業、日中支援事業、発達相談室、おやこ保育などを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>重度心身障がい児の保護者の方は、子どもとの家庭での過ごし方は、休日はほとんど家で過ごしていることが多く、イベントやワークショップなどの体験や参加できる環境が整っておらず、和歌山県田辺市や西牟婁郡地域では、定期的な活動や遊び場所もない。また、保護者同士の交流や相談できる居場所もない状況にある。</p> <p>本事業は、そんな状況の中、安心して安全に遊べるおもちゃで遊び、工作を家族と一緒に体験できる場所、発育や子育ての悩みを相談できる場を提供する内容。</p> <p>具体的には、毎月第2・第3土曜日に、感覚過敏が多い重度心身障がい児や発達障がい児が安心して遊べるコーナーを設置し、自然素材の木と布のおもちゃを用意し工作教室を実施する。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、あそび場所や工作教室を通した重度心身障がい児や発達障がい児やその保護者の居場所づくりの事業である。すでに2017年度で実施中の事業であるが、2018年度は重度心身障がい児の受け入れられる態勢づくりと、環境設備の充実と工作内容の工夫を内容としている。審査委員会では、地方におけるこのような居場所づくりの必要性から企画の「社会性」や「実現性」「効果と発展性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、重度心身障がい者の受入態勢の充実やさらなる拠点づくりに広がることを大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 JAE（大阪）／20万円

「生きる力を育むためのモデルとなる大人との出会うプラットフォーム事業」

<p>団体概要</p>	<p>受験教育に偏った日本の教育の疑問を持ち、青少年を対象に、生きる力（チャレンジ精神・自立心・想像力等）と職業観を養う事業の必要性を感じ、2001年にNPO法人として設立。</p> <p>主な活動は、キャリア教育プログラムコーディネート事業（地域と企業の連携）教職員研修事業、キャリア教育コーディネーター養成事業、実践型インターンシップ事業を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>泉南市教育委員会と連携し、地域課題から生まれる子どもたちの負の連鎖（自己肯定感・自尊感情が全国平均値より低い、高校進学率府内最低）を打破するために、市内の全小中学校において、学校教育指導計画内容の見直し及び教職員連携促進の仕組みづくりに取り組んできた。地元企業との連携による出前授業の開発・運営を始めたが、学校側のニーズを知らない個人・企業が多いことやかかわるきっかけがないという課題がある。</p> <p>本事業は、そのような状況の中、泉南市内の小中学校において「お仕事せんせいプロジェクト」を実施する内容。</p> <p>具体的には、子どもが自己肯定感を高め主体的に生きるための力を育むため、生きるモデルとなる「人」との出会いの機会を増やす事業で、そのために教職員が学校現場にて活用できる「人」の可視化と活用方法の提案の仕組みづくりを実施する。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、家庭・学校以外の第三の大人との関りを持ち、生き方のモデルとなる出会いを積み重ねることで、自己肯定感を高め、主体的に生きる力を育む事業である。審査委員会では、学校側のニーズと個人・企業側の協力したい意欲とのマッチングを図る仕組みづくりについて、企画の「社会性」や「先進性」「効果と発展性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、地域の商工会や企業との連携を強め、子どもにとってよりよい環境づくりにつながることを大いに期待したい。</p>

■ 箱の浦自治会まちづくり協議会（大阪）／20万円

『子どもの居場所サロンでの育成』

～不登校・いじめのない健やかに育ち合う子どもたちを育む地域づくり～

<p>団体概要</p>	<p>箱の浦地区内で進展する高齢化に対応すべく、地域内の高齢が集い、寄り添い合え、絆を育める場所として「おしゃべりサロン」を2012年に設立し、まちづくり協議会として事業展開をしてきた団体。</p> <p>主な活動は、『おしゃべりサロン』を週3回、買い物困難な住民を支援する『朝市』を週1回・高齢者が昼食を共にできる『ランチハウス』を月2回開催。また年2回高齢の住民全体を対象にした『食事会』・『高齢者の健康講座』を実施している。また、小学校に通う児童の登下校の見守り活動や、子どもたち・子育て世代を対象とする『のびのびクラブ』では月1回のイベントを企画し『薩摩芋の植えつけ』・『ホテル観賞会』・『そうめん流し』などを開催している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>高齢者が40%を超える箱の浦地区を生き生きとさせるためには、子どもたちや子育て世代が住みやすく、育ちやすい地域が子どもを見守り育てていく環境づくりが不可欠と考えた。</p> <p>本事業は、子どもの元気な声が響く地域をつくるため、友だちや仲間がしてくれる子どもを地域で育てていく内容。</p> <p>具体的には、「子どもサロン」を開設して気軽に参加してもらい、不登校の子どもや、いじめはないかなど、子どもたちと大人が話し合いながら課題の把握と解決に取り組む、「のびのびクラブ」と連携して読み聞かせや映画鑑賞会などを通じて子どもの参加を増やし、またPTAの会合にも定期的に参加し子育て世代の意見を取り入れた活動を行う。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、子どもの居場所づくりを通じた、子どものいじめや不登校問題の課題解決を図りながら、高齢化する地域の再生をめざした地域事業である。審査委員会では、「のびのびクラブ」の既存の仕組みと連携させて子どもと高齢者との関係づくりが地域再生を狙いとしている点や、企画の「社会性」や「実現性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、「子どもサロン」における活動と交流が広がり、元気な子供たちの声が響くまちづくりにつながることを大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 北摂こども文化協会（大阪）／20万円

「山チャレDeひと山まるごとプレイパーク」

<p>団体概要</p>	<p>「子どもの権利条約」の普及と推進を基本理念とし、地域文化・芸術の伝承と発展、一人ひとりの自己表現をめざして活動している団体で、1998年に活動を開始し、1999年にNPO法人の認証を得た。</p> <p>主な活動は、文化・「共育」事業や舞台芸術鑑賞、地域文化振興事業、出版事業、イベント企画など。「人のぬくもり」と「子どもたちの地域教育」を会員と共に考えながら、各地域で様々な活動を展開している。また地域の街づくりにも参画し、子どもたちの未来へ向けてよりよい街づくりにも尽力している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>家庭と学校（職場）以外に子供や保護者が居場所を持つ支援が必要と考え、電気も水も通っていない大自然の山を会場に、自然の中で思いっきり遊びほうけることを目的に、一人ひとりが主体的に活動できる居場所となる活動を続けてきた。</p> <p>本事業は、当団体の活動が19年目を迎える今年、さらなる発展に向けて、物があふれ情報が多すぎる日常を離れ、自然に触れ、人とのかわりにホッと社会をめざす内容。</p> <p>具体的には、「基地づくり」「水路づくり」「山フェス」（地元の方々と多世代交流・子育て支援コンサート）の新規プログラムに挑戦する内容。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、自然に接する機会が減った子どもたちの「心の危機」に着目し、“ひと山”のような体験ができる場所や機会を通して、子どもと保護者が心のよりどころとなるような居場所づくりの事業である。特に「山フェス」では、多世代交流の場づくりといった新しい展開となっている。審査委員会では、18年間の安定した活動実績に加え、企画の「実現性」や「効果と発展性」「新規チャレンジ性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、自然との体験づくりを踏まえた、他者との交流による違った価値観との出会いなども含めて、心豊かな子育て環境づくりに発展していくことを大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 市民活動サークルえん（奈良）／10万円

「ならボラ Jr」

<p>団体概要</p>	<p>年齢やハンディキャップの有無に関わらず、誰もが生きがいを持って暮らせる社会の実現が、多様化かつ複雑化する社会課題を解決する鍵だと考え、ボランティア活動の啓発や市民活動団体の支援に携わってきた。その中で、社会参加に強い意欲を持つ心身障がい者の可能性には目を見張るものがあるが、思うように活動に参加できていない現状がある。そこで自立に向けさまざまなスキルの習得の支援、社会参加につなげていく事業発展させるため、2015年に団体を設立。</p> <p>主な活動は、放課後等デイサービス事業、「ならボラ」事業（奈良の各地でのボランティア企画）、「えんの下の方持ち」事業（NPO等の運営相談・支援）。</p>
<p>事業概要</p>	<p>子どもたちが抱えるしんどさに、「成功体験の欠落による自信喪失」「対人関係の構築の問題」がある。そこでボランティア活動による達成感や感謝の言葉は自信のにつながり、さまざまな人との出会いは対人関係を築く練習になる。</p> <p>本事業は、発達障がいや不登校などしんどさを抱える中高生（子どもたち）も参加できるプログラムを開発・実施する内容。</p> <p>具体的には、「高齢者に向けたお手紙作成」「難病の子どもに向けたキャラクター折り紙作成」「公共施設の飾りつけ」「お寺での園芸」「地域イベントのサポート」など子どもたちが安全に活動し、かつ成功体験を感じられるようなプログラム運営を行い、プログラム終了時には、活動を振り返り、自分が感じたことをみんなで共有する。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、“支援を受ける側”の発達障がいや不登校などを抱える子どもたちが、ボランティアとして“支援する側”にかかわる事業である。審査委員会では、自己達成感を育む前向きに捉える事業として、企画の「社会性」や「先進性」「共感と市民参加」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が、障がいの有無に関係なく一緒にボランティア活動を行うことで「発達障がい」への理解を促し、「発達障がいの子ども」としてではなく、いち個人として接する学生や大人が増え、優しい社会につながることを大いに期待したい。</p>